



す ま い る

箱根教育合言葉 「箱根を愛し、かしこく やさしく たくましく」

秋風が心地よい季節になりました。さあ、2学期のスタートです。夏休みを終えた子ども達は、期待に満ちた表情で登園して来ました。2学期が一人一人にとって豊かな学びになることを願っています。

今年度は、「コミュニティ幼稚園」の一環で、夏休み中、地域の小学生に呼びかけ交流を持ちました。「畑の玉ねぎを使ったの染物体験」「ろうそくづくり」「ボート体験（卒園した1.2年生）」と体験活動を用意しましたが、どの回も何もない時間が子ども達にとっては大切な時間だったようです。そして、3人で過している園児にとっては、小学生との関わりの中で育まれたことがたくさんあるようでした。何気ない一言を聞き逃さず、共感の言葉で返してくれたり、自分の思いや気付きを豊かな言葉で表現する姿を見たり、友達同士アイデアを出し合い、折り合いをつけながら話し合いを進めていく小学生の姿は魅力的だったと思います。1年生は学校で学んだことを披露する場面もあり、年長児にとっては学校の雰囲気を感じられ、1年生からは小学生になった「誇り」のようなものが伝わってきました。この活動をきっかけに普段の園庭開放にも訪れる小学生がいました。夏休みの宿題をもってきて園でやりながら、登園している園児とも遊んでくれました。中でも縄跳びの表を見ながら様々な跳び方にチャレンジしている小学生の姿に子ども達も影響を受け、今熱心に縄跳びに取り組んでいます。大人が教えることもありますが、そこにある環境に魅力を感じ、自分もやってみたい・やってみようとする主体的な姿の中でこそ、「あんなふうに跳べたらカッコいいな」という心情・「小学生みたいに跳びたい」という意欲、「たくさん練習しよう!」という態度が育まれていきます。これが学びへの基礎だと感じます。小学生と過ごした夏休みは、学びの多い機会になりました。そして、小学生にとっても、「園に行けば誰かがいる」「楽しい」と感じ、そんな場所を求めているように感じました。箱根幼稚園が小学生だけでなく地域の方にとってそんな存在になれるよう2学期も進めていきたいと思っています。



ゴールドウィンとの連携活動・5歳児野外体験

地域の方もご存じの方が多いと思いますが、箱根町は令和4年3月にゴールドウィンと「地域活性化に関する包括連携協定」を締結しました。この協定は、ゴールドウィンのもつアウトドアを通じた体験や学びに関する知見と箱根町の持つ自然環境の双方の資源を有効活用し、地域活性化の推進、自然環境の保全と子ども達の明るい未来の実現を目指したものです。その中で、箱根町内の5歳児とその保護者が、9月8日(木)箱根幼稚園の園庭で「火起こしと調理体験」を行いました。講師にアウトドアコーディネーターの小雀陣二さん（その世界ではとても有名な方だそうです）をお招きして焚火の作り方、包丁を使っての pasta づくりなどを体験しました。子ども達は小さな杉の葉からだんだんと大きな薪へ火が移り焚火になっていく中で、「パチパチ」や「シュー」という薪の音に耳を澄ませてみたり、煙の香りを嗅いだり、風が強く吹くと火が大きく燃え上がることに驚いたり、焚火で作った pasta やスモアの美味しさに喜んだり心動かす体験がたくさんありました。包丁や火を扱うことは危険もありますが、危険を伴う時は、子ども達はいつも以上に真剣に取り組めます。それ以外にも、一緒に体験した友達や大人の人と交わした言葉や表情、箱根の風や空気もそこに加わり、子ども一人一人の心の中に物語が生まれました。この物語を、大人になった時に友達や自分の子どもとまた再現したり、箱根の良さを語ったりして欲しいと思います。SDGs では、貧困をなくすことが1番の目標になっていますが、貧困は金銭的な不自由さだけでなく、体験の貧困も言われています。箱根で育つ子ども達が多様な体験をみんなが同じようにできるということも大事なことで感じました。

午前・午後と10台の焚火を起しましたが、残ったものは手のひらにのる程度の灰の量に、驚いてしまいました。プロは自然を決して無駄にしないのですね。箱根 DMO の方が暑い中、薪割をして用意してくださった箱根の間伐材を使った薪はほとんど残りました。園での活動などに使わせて頂きますが、上手に燃やせるか心配です。当日は、読売新聞、神奈川新聞、神静民報などたくさんのメディアの方が取材に来られました。この記事を通して、「箱根で子育てをしたい」という方が増えて欲しいと願っています。ゴールドウィンのスタッフの方が箱根幼稚園に来られた時の一声が「こんなにいいところ!」でした。いつまでも、この自然あふれる環境を大切にしていきたいです。

廃品回収のご協力ありがとうございました。

アルミ缶の値段が高騰していることもあり、今回は24,030円になりました。ご協力頂いた地域の皆様、ありがとうございました。

二宮金治郎を訪ねて

絵本から始まった金治郎への興味。園庭や箱根の森小学校の金治郎を見て、その違いに気付き興味が広がっています。そこで、小田原まで足を延ばし、三の丸小学校、報徳神社、金治郎カフェの金治郎に会ってきました。「何センチか測ってみたい」という子どもの思いがあったので、メジャーで測ってきました。大人になった金治郎は183cm90キロという大きさにも驚いていました。この興味はどこに続くでしょうか?楽しみです。

生き物大好き

1学期、子ども達が捕まえて飼っていた生き物たち。夏休み中どうするか?投げかけたところ「逃がす」という気持ちはなく3人がそれぞれ面倒を見ることを子ども達で決めました。麦歩ちゃんの「オタマジャクシ」は蛙になり、湊君の「ザリガニ」は脱皮をして成長し、聖菜ちゃんの「トカゲ」は卵から孵りました。今は蝶の博士の白土さんで行った自然観察で見つけた「クロコノマ蝶」の幼虫に夢中です。保護者の方と一緒に楽しもうというスタンスに感謝です。